

## 太陽に比すべき“愛の力”

前項で、「教という字の右半分の“女”は“父”を表わしている」と言い、それは「手に斧を持つことを表わしたものである」と述べました。“斤”は斧の形を表わした字で、斧の本字です。その斧を持って働くのが父である、ということから、“斧”という字が作られたものと思われま

す。そう考えて“斧”という字を見ていると、家族のためにせっせと働く父親の姿がありありと伺われるではありませんか。その、せっせと働く姿を子供に見せることが“教”であり、「子供が父の働く姿を見てこれを真似ることが“学”である」ということを述べたわけです。そこで次に“母”の意味について述べたいと思います。

“母”という字の発音はボです。この発音は“慕”という字の発音と同じです。ということは、「母とは“慕われる人”である」ということを意味しているわけです。



“母”という字は、上図のように、“女”の古い字形である“母”に、二

つの乳房を表わした“ ”を加えたものです。つまり、乳児を養育する母親の最も大切な箇所を表わしています。

母をボ(慕)と読む以上、“慕われる人”でなければなりません。もしわが子に慕われないような母親であったら、“母(ボ)”と呼ばれる資格はないわけです。だから、「どうしたら子供に好かれる母親になれるか」とは、「どうしたら、母親らしい母親になれるか」ということであり、真の母親になる道を求めることを表わした言葉です。

ただ正確に言いますと、“慕われる母親”は“好かれる“母親”と全く同じではありません。“好き”という言葉は“嫌い”の反対語で、「好きな犬」「好きなお菓子」というように、動植物や品物に対しても起こる感情です。

これに対して、“慕う”という言葉は、人間が人間に対してだけ抱く高度な感情です。“敬慕”という言葉がありますように、その人柄が温かく立派で、自然と敬愛せずにはいられない、そういう人に対して抱く感情なのです。

## 嫌われる母親では説得力がない

人間は感情の動物と言われるように、どんなに立派な言葉でも、それが嫌いな人の口から出た場合には聞き入れようとしませんが、敬慕する人の口から出た場合には耳を傾け素直に従います。だから、母親が“慕われる母親”であれば、子供は親の教えを素直に聞き入れて良い子になり、母親が“嫌われる母親”であれば、どんなに立派な教えにも反発して悪い子になるのです。

それで、論語にも「父、父たり。子、子たり」とあります。これは、「父が父らしくあれば、子は自然と立派な子になる」という意味の言葉で、「母が母らしく(慕われる母親)あれば、子は自然と立派な子になる」ということでもあります。

ところで、母らしい母を表わす言葉に“慈母”があります。“慈”は“慈愛”とも言い、太陽が草木に暖かい光を投げかけてこれを成育させるような、報償を求めない愛の心を表わした字です。

草木は太陽を慕うように、必ず太陽に向かって成長します。それと同じように、子供は慈母を慕い、そのいつくしみを受けて成長するも

のです。だから“慕う”とは、母の慈愛に応じて起こる子供の心の動きだ、と言えましょう。

つまり、“慕われる母親”とは、草木を育てる太陽のように、わが子を大きく包容して育てる慈母のことである、ということが出来ます。

私は五、六歳の頃、何か母を怨んで困らせてやろうと思い、部屋中に紙を細かく千切ってまき散らしたことがあります。ところが、母はこれを見て「まあお前は器用だね。お母さんにはとてもこんなに細かくは千切れない」と感心したのです。

その時の恥ずかしかったこと。60年近い年月を経た今でも昨日のように鮮烈なものがあります。これが太陽に比すべき母の慈愛の力なのでしょう。母に対する怨みは一ぺんに消えて、母を困らせるようなことは二度としないぞ、と固く心に誓わせたものです。

こうして太陽のような母の慈愛によって成長した私は、「私も母のような度量の広い人になりたい」と心に強く願うようになり、お蔭で一人前の人間になれたと、亡き母に感謝しているこの頃です。